

遊休農地と地域人材を活かして 新たな茶産地を創生



発表者：笹谷 秀光 株式会社伊藤園 常務執行役員 CSR推進部長

1. 企業概要

- 会社名 : 株式会社伊藤園
- 本社 : 東京都渋谷区本町3丁目47番10号
- 設立 : 1966(昭和41)年8月22日
- 資本金 : 19,912,300,000円
- 従業員数 : 5,340名
- 売上高 : 465,579百万円(連結)
- 事業所 : 全国30地区199拠点、179店舗、4工場、1研究所
- 事業内容 : 茶葉(リーフ)・飲料(ドリンク)の製造および販売

(平成28年4月30日現在)



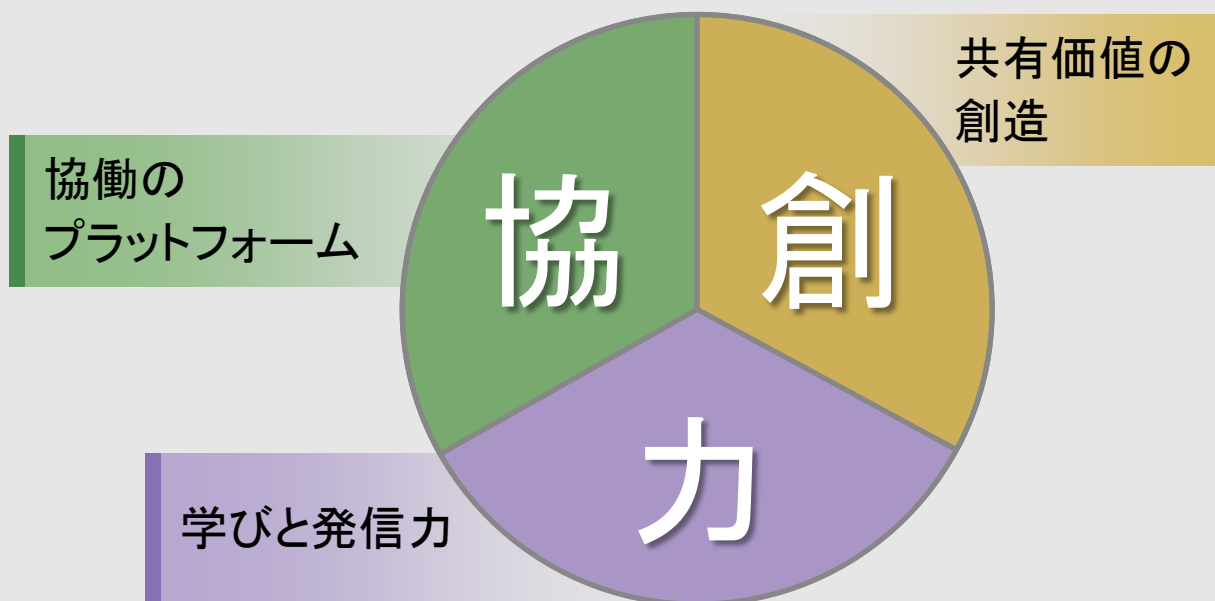
2. 社会課題への対応の必要性

複合課題の解決に、連携・協働で価値を生み出す「協創力」が必要

社会課題の複雑化

協創力

連携・協働で新たな価値を生み出す力



3. 企業の社会的責任

企業は本業を通じて社会的責任を遂行するとともに、共有価値の創造を行う。

関係者との連携のための活動の共通基盤としての「プラットフォーム」である従来の「産官学」に「金(金融界)・労(労働界)・言(メディア)」を加えた「産官学金労言」を形成または参画する。

CSR: Corporate Social Responsibility

社会価値

同時実現

経済価値

共有価値の創造

CSV: Creating Shared Value

活動の共通基盤(プラットフォーム)



CSR/CSVは日本の伝統の「三方よし」に近いが、これとともに心得とされる「隠徳善事」では関係者との連携や革新が生まれないので、的確に発信する「発信型三方よし」で対応



4. 持続可能な開発目標への対応

■持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)

2015年に国連で示された「持続可能な開発目標」は17の目標と169のターゲットから構成される。先進国・途上国いずれにも必要な普遍性のある目標で、持続可能な社会づくりの共通言語として活用する。



図版は国連広報センター

5. 伊藤園グループの社会対応力

■経営理念「お客様第一主義」と世界的視野に立ったCSR体系

伊藤園グループは、経営理念「お客様第一主義」に基づき、ステークホルダーの皆様の信頼を得ることを重視。

SDGs(持続可能な開発目標)の内容も踏まえて、本業を通じた国際規格ISO26000/国内規格JIS Z 26000の7つの原則および7つの中核主題への取り組みを経営に組み込んでいる。

「世界のティーカンパニー」を目指し、国内および世界で新たな食文化の創造と生活提案を行い、社会の課題解決と当社グループの成長を両立させる「共有価値の創造(CSV)」により、持続可能な社会・環境の実現に貢献していく(伊藤園グループCSR憲章より)。



■伊藤園グループのCSRの姿



- 基本的CSR: ISO26000の7つの中核主題に基づく。経営基盤の強化
- 共有価値の創造(CSV): 社会課題の解決と伊藤園グループの成長の両立
(重点テーマである「環境」「消費者」「コミュニティ」でCSVを目指す)
- ESDによる人づくり: チーム伊藤園で実践

6. 「茶畑から茶殻まで」伊藤園独自の一貫体制

■「すべてはその一杯のために」

一より高品質な製品につなげるために一

伊藤園では商品開発を重要な原点と考え、ビジネスモデルを構築している。
これにより新たな価値を生み出している。



7. 「茶畑から茶殻まで」SDGsへの対応

■バリューチェーンの重点課題とSDGsへの対応

伊藤園ではバリューチェーンを通じて、関係者との連携で共有価値を創造している。
また、バリューチェーンでの重要事項についてSDGsの目標との関連を整理して、世界的視野でビジネスモデルを構築している。

バリューチェーンを通じて生み出す価値



8. 茶産地育成事業①

■概要

茶産地育成事業(新産地事業)は、農業者や行政等と協働し遊休農地などを活用して畑づくりから茶葉を育成するものであり、当社にとって国産茶葉の安定調達を実現のほか、①遊休農地などの活用による食料自給率向上、②安定した農業経営、③雇用創出など、地域に眠る資源を活用した地域活性化への寄与を図っている。

なお、茶産地育成事業における茶園面積は、2006年の380ヘクタールから2015年度には1,034ヘクタールにまで拡大している。



大分県杵築市の遊休農地



大分県杵築市の茶産地育成事業(新産地)

9. 茶産地育成事業②

■現状

伊藤園の主力事業である緑茶事業の根幹は、原料である茶葉の調達にある。すでに国内荒茶生産量の約4分の1を扱う伊藤園は、市場における競争優位性を有している。さらなる安定的かつ高品質な茶葉の確保のために、調達の一部を茶農家や行政と協働で取り組む「茶産地育成事業」を展開している。本事業は、個々の茶農家の方々と契約を結ぶ契約栽培と、遊休農地などを利用して大規模な茶園で畑づくりから茶葉を育成する新産地事業(2001年～)がある。

新産地事業は宮崎・大分・鹿児島・長崎の九州4県6地区で展開中。

新産地と契約栽培を合わせて2015年は計1,034ヘクタール(契約栽培面積668ヘクタール、新産地面積366ヘクタール)、将来的には2,000ヘクタール規模を目指し、計画的にその規模を拡大させている。

茶産地育成事業による
茶園面積および生産量の推移



新産地事業展開地区



10. 茶産地育成事業③

■ 特色

茶産地育成事業では、茶農家に対する機械化やIT化を含めた生産技術指導やノウハウの提供を行い、消費者の安全・安心に対する要請に応えるトレーサビリティシステム※の構築や茶葉の品質そのものを向上させる取り組みなどとあいまって、他社の追随を許さない原料調達を実現している。

※トレーサビリティシステム：食品事故等の問題があった際に、食品の移動ルートを書類等で特定し、遡及・追跡して、原因究明や商品回収等を円滑に行えるようにする仕組み。



茶産地育成事業で連携する伊藤園社員とパートナー

11. 茶産地育成事業④

■価値創造

新産地事業では、最近では、建設された荒茶工場、試験研究機関、農業資材企業などの集積効果もあり、さらなるブランド力強化につながっている。

また、この事業を通じ、遊休農地の解消や雇用創出、食料自給率の向上など日本の農業にかかわる課題解決につながるのみならず、全量買取による茶農家の経営安定や後継者不足の解消等の課題解決にもつながるなど共有価値をもたらしている。



■SDGsとの関連

SDGsとの関連では、目標2の中にある「持続可能な農業」、目標8の「雇用」、目標12の「持続可能な生産と消費」などに関連している。



12. 「世界のティーカンパニー」に向けて

■ 海外事業戦略

- ・ オーストラリア・ビクトリア州で「茶産地育成事業(新産地事業)」を実施し、現地の茶生産者と協力して茶栽培技術の工夫をしている。
- ・ オーストラリア国内向けの製品の原料や、伊藤園の特定保健用食品の原料などとして使用している。



■ 世界的ビジネス誌「フォーチュン」でも評価

TOPIC

ビジネス誌『フォーチュン』(2016年9月発行)「世界を変える企業50社」に選ばれました

ビジネス誌『フォーチュン(FORTUNE)』2016年9月1日号の「世界を変える企業50社(50 Companies That Are Changing The World)」にて、日本企業が2社選ばれています。伊藤園は経営戦略の一環として社会課題に独自に取り組む「茶産地育成事業」、「茶殻リサイクルシステム」等が評価され、日本企業では最高位の18位に選ばれました。

▶ 詳しくは「フォーチュン(FORTUNE)」のサイトをご覧ください。[英語]

<http://beta.fortune.com/change-the-world>

13. 茶産地育成事業に関連する社会からの評価

当社の茶産地育成事業は、外部から以下のとおり多面的に評価をいただいている。

➤ 2013年 ポーター賞

- ・ 茶葉市場における規模の優位性と、高品質な茶葉の安定的確保も含めて、バリューチェーン全体での競争戦略が評価された。

➤ 2015年 日経ソーシャルイニシアチブ大賞(企業部門賞)

- ・ 「耕作放棄地の活用で大規模茶園を造成」「高品質茶葉生産と農業経営の安定化」「地元の雇用創出で地域活性化」が評価された。

➤ 2016年 食品産業優良企業等表彰(農林水産大臣賞)

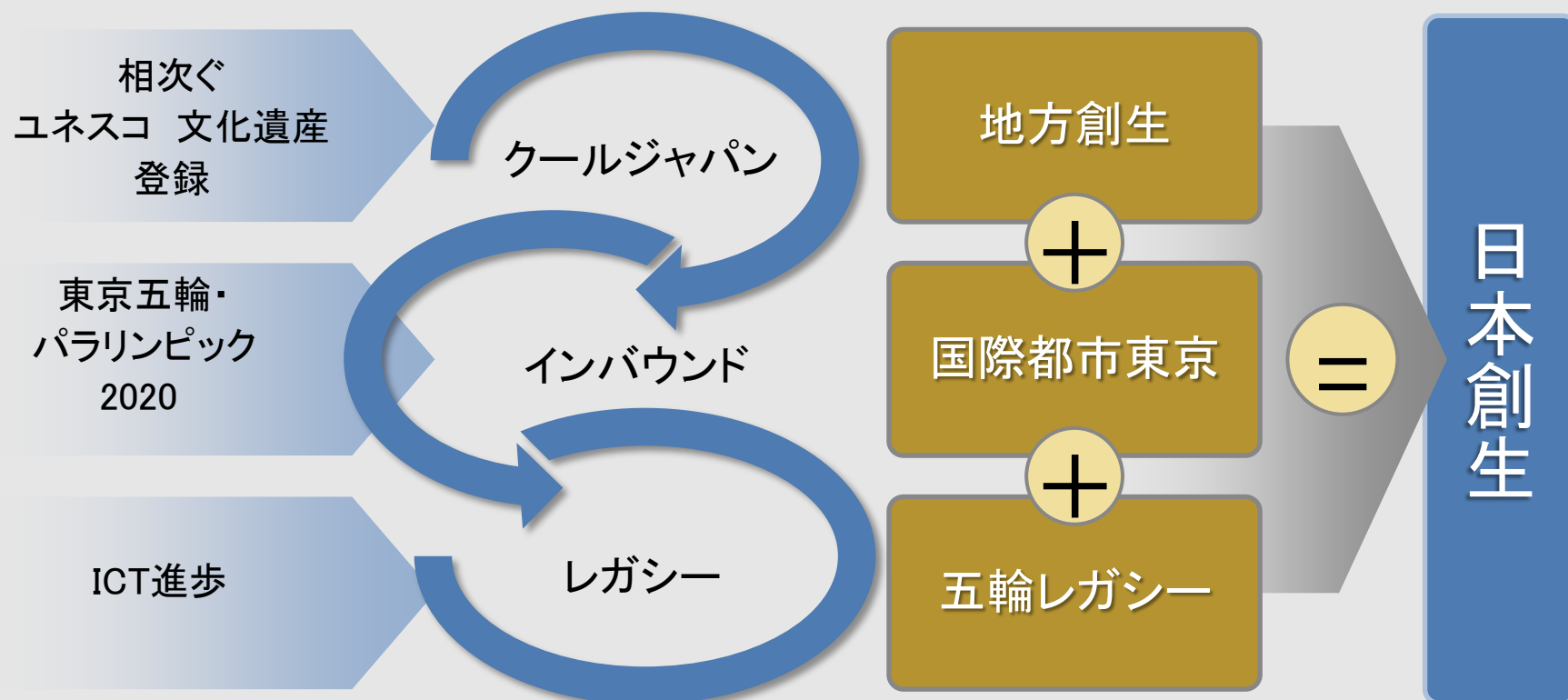
- ・ 耕作放棄地などの活用による食料自給率向上、安定した農業経営、雇用創出など、地域活性化への寄与などが評価された。

➤ 2016年9月、ビジネス誌『フォーチュン』の「世界を変える企業50社」の18位に選出された

- ・ ビジネス誌『フォーチュン(FORTUNE)』2016年9月1日号の「世界を変える企業50社(50 Companies That Are Changing The World)」にて、日本企業が2社選ばれた。伊藤園は経営戦略の一環として社会課題に独自に取り組む「茶産地育成事業」、「茶殻リサイクルシステム」等が評価され、日本企業では最高位の18位に選ばれた。

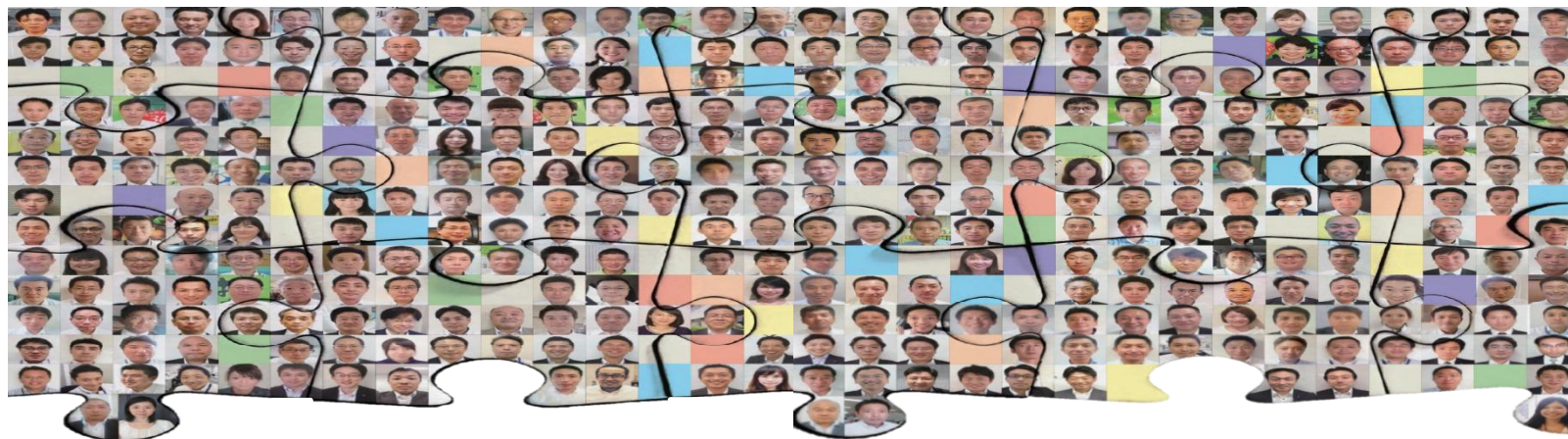
14. 明日へのヒント

新グローバル時代の中で、クールジャパン・インバウンド・レガシーの3つのキーワードに対処し、日本創生に貢献していく。



15. 伊藤園が目指すところは・・・

チーム伊藤園 とともに学ぶ。つながる。明日の未来へー



Communi“tea”®

※伊藤園の登録商標です。

問い合わせ先
株式会社 **伊藤園** CSR推進部

〒151-8550 東京都渋谷区本町3丁目47番10号
TEL 03-5371-7213 FAX 03-5371-7196
e-mail csr@itoen.co.jp
<http://www.itoen.co.jp>

茶産地育成事業に関する詳細は、以下のサイトをご参照ください。

▶ <http://www.itoen.co.jp/csr/cultivate/>